

館報



6月号

やまがた

No. 782

令和3年
(2021年)



農地と里山を守るハンター

自然の多い山形村では、農作物が野生動物の被害にあうことがあります。全国には狩猟免許を持ったハンターたちで構成される『猟友会』という組織があり、自治体から任命を受け里山保全のための有害鳥獣駆除などの活動をしています。松塩筑猟友会山形支部は後継者不足などの問題もありますが、IT技術を使った罠監視装置の導入など、新しい技術を取り入れながら今日も私たちの生活を守ってくれています。

(5月30日 村内にて)

働
姿



小学校4年生防犯教室

5月14日(金)、小学校4年生が松本警察署生活安全課の職員から、SNSの怖さや関わり方についてお話を聞きました。真剣に聞き入っていた児童たちに、「我が家のお約束」をお家の人と相談して決めましょう」との話が最後にありました。

有志の方が集まっただけで、早朝から約30人が集まり、普段は手が届きにくい部分の清掃や校内の草刈り、



小学校PTA作業

5月22日(土)、山形小学校にて、PTA作業が行われました。例年、保護者は春と秋に行われるPTA作業のどちらかに参加する形態となっていました。今年がコロナ禍のため、大人数で集まっただけで、環境整備を行うことができません。今回は先生方、PTA役員、有志の方が集まっただけで、早朝から約30人が集まり、普段は手が届きにくい部分の清掃や校内の草刈り、



かんのうの 神農 (高3) ひろむ 光黙さん (下大池)

山っこ全国へ!!

佐久長聖高等学校に在籍中の神農光黙さん(下大池)が柔道100kg級でインターハイ出場が決まりました。光黙さんは3歳で柔道を始め、中学1年生からは親元を離れて佐久長聖中学校・高等学校で稽古を続けてきました。中1で佐久長聖に入学する際に6年間かけてインターハイに出場する計画を立てていたそうで、見事に目標を達成しました。現在は8月7日〜11日の本戦に向けて最後の追い込みをかけている最中ということです。全力を出し切り、悔いのない戦いをしてきてほしいですね。



佐久長聖高等学校に在籍中の神農光黙さん(下大池)が柔道100kg級でインターハイ出場が決まりました。光黙さんは3歳で柔道を始め、中学1年生からは親元を離れて佐久長聖中学校・高等学校で稽古を続けてきました。中1で佐久長聖に入学する際に6年間かけてインターハイに出場する計画を立てていたそうで、見事に目標を達成しました。現在は8月7日〜11日の本戦に向けて最後の追い込みをかけている最中ということです。全力を出し切り、悔いのない戦いをしてきてほしいですね。

ワックスがけを行い、児童たちが快適な学校生活を送れる環境を整えました。



小学校1年生を迎える会

5月26日(木)、1年生を迎える会が行われました。例年は、体育館に全校児童が集まりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため校内テレビ放送で開催されました。

小学校不審者侵入訓練

5月28日(金)、松本警察署生活安全課の方の指導のもと、職員が不審者侵入の際の対応について訓練しました。刃物を持った不審者が侵入したとの想定で、児童の安全確保、職員も安全を確保しつつ不審者への対応、通報を含めた緊急連絡について学びました。



山すそ

緊急事態宣言の緊迫した年明けから半年がたち、新型コロナウイルスワクチン接種が各地で実施されている。予断は許さない状況だが、収束への一助となることを願う▼変わりゆく世情の中でも我が家の台所は今年も変わらず、ルバーブジャム作りと梅シロップをせっせと仕込んでいる。旬の味をぎゅっと詰め込んだ保存食作りは心が躍る。どんな味に仕上がるか開けるまでの楽しみだ▼日常の小さな挑戦の積み重ねから大きな夢を叶えた実話がある。単調な毎日を送っていた主婦が365日で524種類のフランス料理のレシピを試作し、経過をブログに掲載していくプロジェクトを始めた。難易度の高い料理に苦戦しながらも、言葉発信し続けたことが、世界中の人びとの心を掻き立て、彼女のプロジェクト名である「ジュリー&ジュリア」で映画化された。書いて伝えることが自身や誰かにとっても背中を押すエールになった▼村民の皆さんが大切にしていく「モノ」や「コト」を紹介する新連載の『やまがた Smile』も笑顔をつなぐ架け橋になりますように。

想定「外」を無くそう！園児・児童たちの命を守る訓練

5月31日(月)、山形保育園及び山形小学校にて、「震度6の地震が発生し、村内でも被害が確認された」と想定した引き渡し訓練が行われました。

筆者も山形保育園に子どもを預けているということもあり、取材と併せて実際の災害を想定して、徒歩で山形保育園まで駆けつけました。先生や迎えに来る保護者も真剣な眼差しで、普段と違う雰囲気

に園児たちも緊張した面持ちだったのが印象に残りました。地震だけではなく、豪雨やクマ出没など、緊急時には保護者へ緊急メールが発出されることとなります。この機会に、ご自宅・職場などから保育園・小学校までの道順の確認(例えば、河川氾濫で橋が通行できない場合など)さまざまなケースを事前に家族内で話し合うきっかけになれば良いですね。



6月1日(火)には、やまのこ保育園で、地震を想定した避難訓練が行われました。地震発生時に落下物や建物の倒壊に巻き込まれないために、急いで屋外へ逃げるよう、事前に各担任から説明があると静かに耳を傾ける園児たち。

「地震だ」という職員の声と同時に素早く園庭に通じるろう下まで走り出し、手で頭を押さえて、うずくまる姿勢をとりながら揺れが収まる合図まで落ち着いて待つていました。

年少以下のクラスでも突然の地震に備えて担任が頭から布団をかぶり、園児を守る姿や「ダンゴムシさんになるよ」と身近な昆虫に例えて園児たちを守る動作を伝えていました。



2021. 6. 1

Yふるさとレンジャー隊 『鳥』をテーマに 今年度スタート

5月16日(日)、トレーニンングセンターにて、令和3年度のYふるさとレンジャー隊の認定式が行われました。今年度は村内で見られる野鳥のフィールド調査を行い、学びの成果を長野美術専門学校との協力のもとパンフレットとして、村内外に発信する予定です。認定式では、昨年度から継続して参加したレンジャー隊員や新たに加入した小学生レンジャーと、活動を支援するシニアサポーターに認定証とトレードマークであるレンジャーハットが授与されました。

調査を始める前にシニアサポーターで『信州野鳥の会』の会員である務臺明さん(上大池)に双眼鏡の使い方を教わりながら、トレセン周辺でヒヨドリやカワラヒワなど身近な野鳥を観察しました。今後は



さまざまな場所や季節で観察された野鳥を紹介していきますので、お楽しみに。まずは初回として、清水高原で行ったバードウォッチングの様子は6ページをご覧ください。



Yふるさとレンジャー 隊員募集中!!
一緒に山形村の自然を再発見しませんか?
お問い合わせ
山形村教育委員会
☎0263-98-3155

やまがた未来塾開講
5月22日(土)、トレーニンングセンター大ホールにて、『やまがた未来塾』の開講式が行われました。子どもたちの「もっと分かりたい」「苦手をなくし



たい」などの気持ちを信州大学の学生や地域の学習支援員がサポートし、学習する機会と場所を提供しようと教育委員会が企画し、山形村では初めての開催となりました。冒頭の説明の中では、学ぶことへの興味をもってもらえるようユーモアを交えた話もあり、子どもたちは目を輝かせていました。学習に入る前には、子どもたちと担当する学生が自己紹介を行い、会場内はマスクの中でも笑顔がふれる温かい雰囲気になりました。この未来塾は、午前中が4年生以上の小学生、午後は中学生の部として構成され、いずれも20数名が参加し、毎月2回、来年2月までの19回開催されます。

新しいチャレンジ！ 山小わくわくクラブ開講

今年も小学校4～6年生を対象とした山小わくわくクラブがスタートしました。10月までの計5回、地域の方が講師となる講座を中心に魅力的な16講座が開講しました。

学年も違うメンバーと一緒にさまざまな体験を学ぶことができます。これからの活動がとても楽しみです。



ソフトボール



卓球



バドミントン



運動



郷土料理



将棋



伝統文化



フラワーアレンジメント



手芸



イラスト



絵手紙



書道



自然探検・工作



写真



コンピューター



合奏



防災・減災を考える



避難所位置情報



★山形小グラウンド



★トレングラウンド



上大池コミュニティセンター



★ふれあいドーム



小坂公民館



中大池語部の館



上竹田公会堂



下大池公民館



山形小体育館



下竹田公会堂



ミラ・フード館



トレンセンター体育館



鉢盛中体育館



ふれあい児童館



いちいの里
(福祉避難所)



トレン研修棟
(医療救護所)

※一部略称となっています

★：指定緊急避難場所

★春の環境整備★

6月6日(日)、各地区・連絡班で環境整備が行われました。

普段利用している道路・側溝・公共施設などを、心を込めて清掃していました。一人では厳しい作業も、お互い協力して汗を流すことで、より一層環境美化が進められたのではないのでしょうか。



知っていますか？
今年5月20日に警戒レベルが変更され「避難勧告が廃止、避難指示に一本化」となりました。「もう少し大丈夫と思っていたのに、あつという間に水に囲まれ逃げ場を失った」と被災者が証言するように、状況は私たちの想像を超えるスピードで変化します。避難準備は平時に済ませておき、指示が出たらすぐに避難行動に

今年も水の季節がやってきました。近年、大雨に起因する災害は件数増加・規模拡大の傾向にあります。大切な命を守るために何をすべきかを考える習慣づけをしましょう。

「どこに逃げればいいのか分からなかった」という言葉が耳にしました。山形村では災害時に16箇所の指定避難所等が設けられます。左面に指定避難所等の位置情報をQRコードで掲載しますので、避難先を考える際の参考にしてください。お住いの区に関わらず最寄りの避難所を利用したいと思いが、利用経路に河川がある場

過去の災害に学ぶ

移れるようにしましょう。逆に「緊急安全確保」発令後の移動は却って被災リスクが高まる恐れがあるため、その場で最も助かる可能性が高い行動をとることが求められます。

山形村の防災情報

山形村HP ↓ 右上メニュー
↓ 防災・緊急
ハザードマップポータルサイト
<https://disaportal.gsj.go.jp/>

災害への備え

災害の規模によってはライフラインがダメージを受け、電気・水道・ガスが利用できなくなるケースもあります。政府発表によると、そのような状況に備えて3日〜1週間分の食料・飲用水(1人当たり

新型コロナウイルスの対応

行政・有識者から感染拡大防止策として在宅避難や分散避難なども提案されています。ハザードマップで自宅や親族宅で被災リスクを確認した上で十分な備蓄が確保できる場合には、あえて避難所を利用しないという選択肢を選ぶこともできますので、家族・親族・

1日3ℓ)・生活必需品、持病がある方は薬などを備蓄しておくことが望ましいそうです。生活用水は飲用水と別に用意する必要があります。お風呂の残り湯を活用するのがよいと言われています。また家族と離れた場所で被災した場合のために、連絡方法や合流場所を確認しておきましょう。

近所と相談しておきましょう。また災害発生後は粉塵などを介した感染症リスクも高まります。新型コロナウイルスの流行に関わらず、防塵マスク・防塵メガネ・消毒用アルコールといったアイテムも準備しておきたいところです。

自然災害に対しては何をどのくらい準備しておけば十分かという判断が非常に難しいものです。もしかすると準備した防災アイテムも避難行動も空振りになってしまいかもしれません。ただ、これは筆者の主観ですが、大切なものを失って一生後悔し続けて生きるくらいなら笑い話のネタにされる方がよほどマシではないでしょうか？

公民館講座

おやし塾 活動記録

～山菜採り～

5月6日(木)、清水高原にて山菜採りを行いました。参加者の中にはプライベートでも山に入ることが多い方もいて、「この山菜はアクが強く苦い」「この植物は食用向きだ」「これはきれいな花が咲く」など互いの知識や経験を語り合いながら散策しました。

7日(金)には、昨年収穫した蕎麦を打ち、前日に採れた「タラの芽」「ゴゴミ」「コシアブラ」を使って天ぷら蕎麦づくりを体験しました。



↑道なき斜面を進む

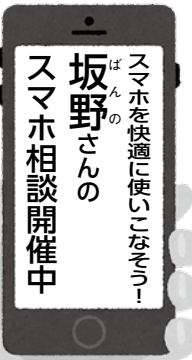


YFR&バードウォッチング

5月30日(日)、公民館講座と



Yふるさとレンジャー隊との合同バードウォッチングが行われました。20人ほどの参加者が清水高原(清水寺周辺)に集まり、最初に講師の『信州野鳥の会』顧問の丸山隆さん(松本市)から今の時期に聞くことのできる野鳥の種類や鳴き声、また野鳥の探し方のポイントを教えてもらい散策に入りました。参加者は耳を澄ませて聴こえてくる鳴き声の方に双眼鏡を向けては野鳥を探しましたが、高い木々やハルゼミの鳴き声が邪魔をして姿をとらえることができた参加者は数名でした。見ることができなく残念でしたが、2時間ほど初夏の森林浴を楽しめました。



5月から7月まで毎月4回、山形村役場にて、山形村スマホ(スマートフォン)相談窓口が開催されています。山形村地域おこし協力隊OBで現在はスマホやパソコン関係のアドバイスやデザインを中心に活動されている坂野岳人さん(下大池)が、相談に訪れた方の悩みにじっくりと耳を傾けています。この日は相談者が

活き生き塾 活動記録

～開講式～

6月15日(火)、トレーニングセンターふるさと大ホールで、活き生き塾開講式が行われました。開講式後には、3月までの年間スケジュールを計画し、スポーツや園芸、バスハイクなど多彩な内容に今から活動が楽しみです。



『山形村スマホ相談窓口』
申込み・お問い合わせ
山形村役場 企画振興課
☎0263-98-5666
相談無料

7月の相談窓口開催日

8日(木)・29日(木) 9:30～11:30
16日(金)・30日(金) 17:30～19:30



どのような操作に困難を感じているのか、「メールの打ち方」や「QRコードの使い方」などが書かれたチェック表に沿って、具体的に聞き取り、手順を説明していました。「何がわからないのか相談者より一つずつ聞いていくことで、こういった使い方ができるといった活用の幅を広げていけたら」と話す坂野さん。昨今では、新型コロナウイルスの予防などインターネットでの手続きが広く浸透しています。ぜひ、この機会を利用してスマホを快適に安心して使ってくださいね。

やまがた村産 アスパラ収穫体験



5月16日(日)から6月13日(日)まで観光協会主催のアスパラ収穫体験が行われました。

4月の暖かさでぐんぐん成長したアスパラでしたが、5月初旬に強い霜に遭い生育に難しい時期を乗り越えての収穫体験となりました。取材をした5月26日(水)には、多くの参加者が圃場に集まり、感染対策を実施して収穫を楽しんでいました。



おめでた(字・題)

- 眞野 珠々菜・敬輔・下竹田
- 小林 露果・雅行・小坂
- 永島 光・裕・小坂
- 百瀬 大弥・恵美香・上竹田
- 百瀬 五七・83歳・下竹田
- 神通川 隼・80歳・下大池

任命式・出陣式

5月30日(日)、役場駐車場で、山形村鳥獣被害対策実施隊の任命式と出陣式が行われました。松塩筑獵友会山形支部のメンバー15名が隊員として一年間の活動を任命され、本庄村長より任命書が交付されました。農作物の被害が多い5月から11月にかけて駆除活動を行い、設置した罠は毎日役員が見回り確認します。

本庄村長からは「農作物や村民の安全を守るためよろしくお願いします」と激励の言葉が送られ、式典後は第一回目の活動が行われました。



村内の風景から

清水寺



創建年(伝) 天平元年(729年)



6月中旬より、数多くの山野草が見ごろを迎えました。(写真はヒメシヤガ) ※5月30日(日)撮影

春のお祭り特集

今年のお祭りも新型コロナウイルス感染拡大に伴い、規模を縮小するなど例年に比べると寂しいお祭りとなりました。各お祭りの様子をお伝えします。

大日堂例祭

4月24・25日



参拝された親子にはお菓子が配られました。

八幡神社例祭

4月28日・29日



関係者による神事のみ執り行われました。

清水寺八十八夜例祭

5月1日



年に1度、ご開帳される千手観世音菩薩のご本尊を前に静かに手を合わせました。

建部神社例祭

5月8日・9日



新型コロナウイルス収束を願った花火が打ち上げられました。

新編集部員紹介



中村 辰弘 (上大池)

6月から編集部員に加入しました中村です。稼業は長芋やアスパラを栽培する農家を営んでおります。

先日、5月号の編集会議を見学させていただきましたところ、記事に関する白熱した議論が繰り広げられていて衝撃を受けました。率直な感想ですが、「ああ、館報は事務的な広報誌ではなくて、編集部員の熱量で成り立っているんだなあ」と実感した次第です。まだまだ見習いではありますが、皆さんと協力して山形村の今を伝える記事作りに取り組んでいきたいと思っております。取材の際はどうぞよろしくお願い致します。

館報やまがたは8人体制で毎月発行しています。編集作業にご興味がある方は、ぜひ一度見学に来てみませんか。まずは事務局までご連絡ください。

020263・98・3155



愛情を注ぎ ネギを作る 夫婦の

一條 健一さん ちさと 智里さん(下竹田)



昨年からはネギ栽培を主に新規就農された健一さん、智里さんご夫婦。山形村出身の健一さんと、安曇野市出身の智里さんの出会いは職場が同じだったこと。猫が好きで世話好きな人柄など共通点が重なり、話をしていくうちに自然と仲良くなり、結婚という流れになったというお二人。結婚後は健一さんの仕事の関係で青森県で二年ほど暮らしましたが「子育ては自然豊かな山形村で」「植物が大好きでいつかは農業をしたい」という思いで村に戻ってきました。子育てをしながら健一さんは近くの農業法人へ就職し、農業のノウハウを学び、独立。一年目は初めてのことで失敗もしながらお二人で勉強の日々だったそうで、二年目の今年「立派なネギを作ってやろう！」という思いで日々励んでいるようです。子育て中のお二人は、「作物も子どもと同じ、育てる責任」を感じながら仕事に向き合っています。これから大人になっていく子どもたちのためにも「減農薬栽培」という強いこだわりも持っています」と真剣に話すいっぽう、「いつかは『宇宙』でもネギの栽培をしたい」と壮大な夢を語ってくれました。

やまがた Smile

今月のテーマ 秘伝のレシピ ～かんたん甘酒の作り方～

投稿者 ママも娘もみーちゃんさん(小坂)

〈材料〉

・米麴500g・お湯(60℃くらい)700cc・塩 1～2つまみ

〈用意する道具〉

・保温機能がついた炊飯器・布巾・しゃもじ・菜箸・計り

〈作り方〉

①炊飯器の中にもぐした米麴とお湯を混ぜ入れる。

麴は生でも乾燥でもいいよー!



②内釜の縁に菜箸を置いて、その上に湿らせた布巾をかぶせる。炊飯器の蓋は半開きになるよう、蓋の上に重しをのせる。保温機能(高め)のスイッチをおして、一時間発酵させる。



③塩を加え、トロトロになるようにかき混ぜる。②と同様に湿らせた布巾をかぶせて約10時間保温する。

塩がポイント



〈ちょこっとアドバイス〉
温度計がなくても60℃くらいのお湯をつくることでできます。沸騰させたお湯に同量の水を混ぜ合わせると、だいたい60℃になります。

④麴がやわらかくなったら、できあがり。保存容器に入れて、冷蔵庫で約一週間保存できます。



〈投稿者からのメッセージ〉
朝に飲むと短時間でエネルギー補給になり、夜に飲むと一日の疲労回復に効果的な甘酒。一般的には米麴にご飯を入れて作る方法が多いですが、これは米麴とお湯だけでOK。ご飯を入れない分、できあがり量は少ないですが、手軽に作れます。前の夜に仕込んで、朝にはできています。忙しく働く主婦にピッタリのレシピ。
そのまま食べてもいいし、牛乳やヨーグルトに入れても美味しいですよー。

